

「体育心理学」の授業評価

保健体育講座・田中雅人

1. 授業の概要

この授業では, 体育・運動・スポーツを心理学的側面から研究するための科学的基礎を得ること, 実際の体育やスポーツ場面での運動行動の理解や指導に役立つ知識を習得することを目的とした。なお, 到達目標を, 1) 運動の学習と学習過程に関わる主要な概念, および種々の運動学習理論の変遷を説明できる, 2) 運動の記憶と運動学習との関連性を情報処理論的な立場から説明できる, 3) 視覚を中心とした知覚システム, および運動感覚について説明できるの3つとした。

3つの到達目標を達成するために, 1) 運動学習の過程, 2) 学習理論, 3) 運動学習の理論, 4) フィードバック, 5) 運動の記憶, 6) 運動の知覚, 7) 状況判断の過程の7つの領域について概説した。また, 2つの実験実習を行いレポートを課した。受講生は32名で, いずれもスポーツ経験が豊かであったため, 習得した知識をスポーツ実践や指導に一般化できることを主眼に置いた。授業では, プレゼン用ソフトを使用し, 図表, 写真, 映像, アニメーションなど, その特性を有効に活用できるよう努めた。評価は, レポート, 試験, 学習状況を総合して行った。

2. 授業評価

以下の5領域・16項目に対する5段階評定と自由記述による調査を実施した。各項目の評定の平均値とヒストグラムを示した(図1)。

●理解度

1. 授業の目的は, 十分に達成された。
2. 到達目標は, 十分に達成された。

●授業内容

3. 授業は, シラバスに則して行われた。
4. 授業の進度・時間配分は, 適切であった。
5. 授業のレベルは, 適切であった。
6. 授業内容は, 役に立つものであった。

●教授方法

7. 説明は, わかりやすかった。
8. 質問や発言の機会が適切に与えられていた。
9. スライドの使い方は, 効果的であった。
10. 配布資料の使い方は, 効果的であった。
11. 教員の授業に対する意欲・熱意を感じた。

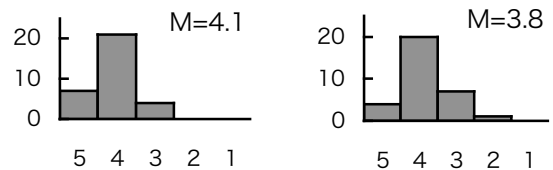
●受講生の意欲・関心

12. 授業に対して意欲的に取り組んだ。
13. 授業の内容に対して興味・関心があった。

●評価に関わるもの

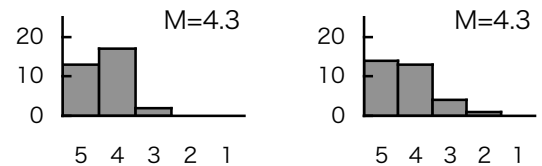
14. レポートの課題は, 適切であった。
15. 試験の内容は, 授業内容に則していた。
16. 評価の方法は, 適切であった。

図1



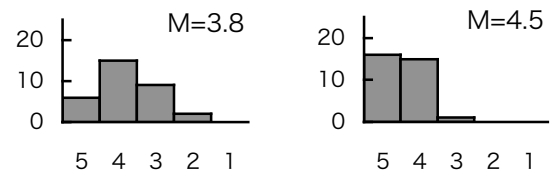
1. 目的

2. 到達目標



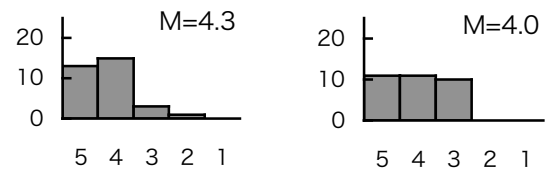
3. シラバス

4. 進度・配分



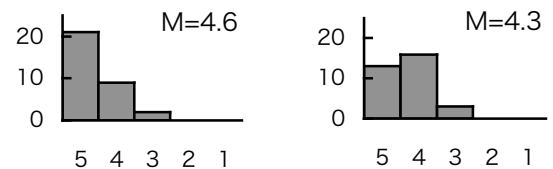
5. レベル

6. 内容



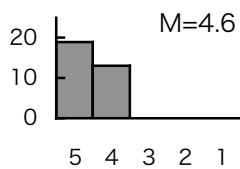
7. 説明の仕方

8. 質問・発言

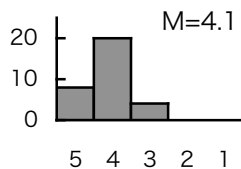


9. スライド

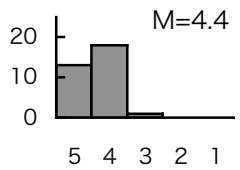
10. 資料の配付



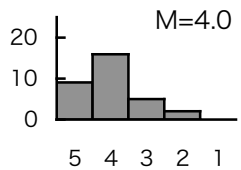
11.教員の熱意



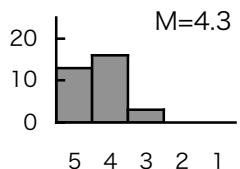
12.意欲



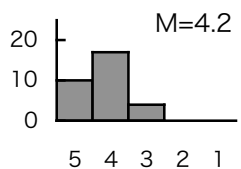
13.興味・関心



14.レポート



15.試験の内容



16.評価の方法

1) 理解度

評定値は、4.0前後で、概ね達成されていたと思われるが、「2.到達目標」の値が3.8と、他の項目に比べて低い値を示した。これは、予定していたが時間不足で十分にできなかった領域があったためだと思われる。次回は、達成目標を多少縮小することで対応したい。

2) 授業内容

「5.授業のレベル」を除いて、4.0以上の高い値を示した。特に「6.授業の内容」は高く、ほとんどの受講生が5あるいは4と評定していた。授業の目的である「実際の体育やスポーツ場面での運動行動の理解や指導に役立つ知識を習得する」ことを達成するために適切な授業内容であったと思われる。ただ、「5.授業のレベル」の評定値が3.8で、やや難しいと感じている受講生もいたことから、授業内容については、更なる吟味が必要である。また、授業の最初にシラバスを提示し、授業の流れを把握できるように努めた。授業は、ほぼシラバス通りに行われたことから、進度や時間配分についても目立った問題はなかったように思われるが、一部に「進むのが速い」という声もあった。

3) 教授方法

この授業では、板書は行わず、プレゼン用ソフト（スライド）を用いた。「9.スライド」の評定値は4.6と高く、「非常にわかりやすく良かった」「板書よりも見やすかった」という感想が示すように、受講生には好評であった。

「スライドを進めるのが速いので遅くして欲し

い」という要望があり、できるだけゆっくりと進めたつもりだったが、「わかりやすかったが書く時間がもっと欲しかった」「見づらいところがあった」などの声も聞かれた。スライドの速度や部屋の明るさなどにもさらに注意を払う必要があると思われる。また、「スライドを資料にして配付して欲しい」という要望に答え、配付資料にしたところ、「10.資料の配付」の評定値は、比較的高い値（4.3）を示し、「ノートまとめがすごくしやすくなった」など肯定的な感想が聞かれた。「11.教員の熱意」の評定値は4.6と高かったが、「8.質問・発言」の評定値は4.0であった。質問や発言する機会を必ず設けていたが、質問の内容や発言を促す方法にもう少し工夫が必要であったのではないと思われる。

4) 受講生の意欲・関心

「12.意欲」の評定値は4.1、「13.興味・関心」は4.3と比較的高い値を示した。また、「ひとつひとつの動きがこんなふうに理論で説明できると思ったらすごく興味がわきました」「自分が意識せずにいろんなプレーをしていることを知って驚きました」など具体的な感想もみられた。

5) 評価に関わるもの

評価は、2回のレポートと最終の試験、および学習状況を得点化して、その総合点としたが、「16.評価の方法」の評定値が4.2であったことからその方法は、概ね妥当であったと思われる。なお、「14.レポート」で2と評定した受講生がわずかながらいたことや「レポートの課題が少し難しかった」「実験は面白かったがレポートは大変でした」という感想がみられたことから、課題の内容については、少し検討する必要がある。一方で、「レポートを通してまとめ方も学べて良かった」「パソコンがうまく使えるようになった」という感想も聞かれ、実際にパソコンを使ってデータ処理や図表の作成方法などを実習することで、レポート作成に必要な知識を習得することができると思われる。また、試験はノート・資料持ち込み可で行ったが、受講生には授業内容に則したものであったと捉えられていた。

板書を行わず、すべてにスライドを用いるといった試みは、概ね良好な評価を得られたが、試験の結果、補講が必要な受講生が3名いた。すべての受講生が授業内容を理解できるよう、授業のレベル、スライドの使い方、レポート課題の内容などの個々の問題点について対処方法を検討したい。